

Ⅱ 調査結果の概要

業種による差異はあるものの、未だ回復の兆しは窺えず

1. 全体の概況

売上高と収益性を合わせたD I 平均値(前年同期比)については▲20.6 となり、前回調査(27 年10-12 月期)の▲14.9 から5.7 ポイント下降している。来期見通しにおいては、2.3 ポイント上昇して▲18.3 となる見通しになっている。

売上高D I (前年同期比)については▲21.4 となり、前回調査から9.8 ポイント下降している。来期見通しにおいては4.5 ポイント上昇して▲16.9 となる見通しになっている。

収益性D I (前年同期比)については▲19.7 となり、前回調査から1.5 ポイント下降している。来期見通しにおいては今回調査と同じく▲19.7 となる見通しになっている。

業況D I (前年同期比)については▲15.7 となり、前回調査から0.7 ポイント下降している。来期見通しにおいては2.0 ポイント下降して▲17.7 となる見通しになっている。

原材料価格D I (前期比)については9.1 となり、前回調査から3.1 ポイント下降している。

販売価格D I (前期比)については▲4.9 となり、前回調査から1.1 ポイント下降している。

資金繰りD I (前期比)については▲14.2 となり、前回調査から3.7 ポイント下降している。

金融機関の態度D I (前期比)については2.3 となり、前回調査から1.4 ポイント上昇し緩和している。

設備投資実施率については30.6%となり、前回調査から7.6 ポイント上昇している。業種別で最も高い実施率となったのは「プラスチック製品」の85.7%、目的別では「品質向上」が23.5%でトップとなっている。

来期の設備投資計画率については32.2%となり、前回調査から6.4 ポイント下降している。

設備操業率D I (前期比)については▲19.7 となり、前回調査から18.2 ポイント下降している。











雇用人員判断D I (前期比)については8.6 となり、前回調査から3.2 ポイント上昇し、不足感が高まっている。

全体の景況天気図は前回同様「小雨」が続いており、来期見通しにおいても「小雨」が続く見通しとなっている。

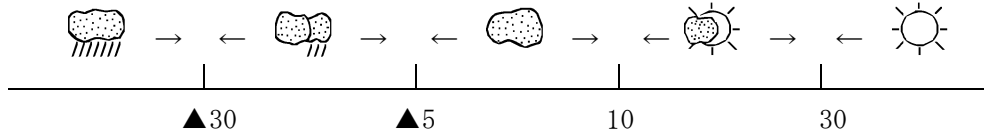
業種別に見ると「繊維・同製品」は「曇」から「薄日」、「木材・木製品」は「雨」から「小雨」へ前回調査と比べそれぞれ回復している。反面、「機械・機器」は「曇」から「小雨」、「紙・加工品」は「曇」から「雨」へそれぞれ悪化している。また、「プラスチック製品」・「食料品」・「金属・同製品」は小雨、「窯業・土石製品」は「雨」となっており、それぞれ3期連続で同様の天気図となっている。

来期見通しにおいては「プラスチック製品」は「小雨」から「曇」、「紙・加工品」は「雨」から「小雨」へそれぞれ回復。反面、「繊維・同製品」は「薄日」から「小雨」へ悪化。「木材・木製品」・「機械・機器」・「食料品」・「金属・同製品」は「小雨」が続き、「窯業・土石製品」は「雨」が続く見通しとなっている。

【図表 1】

	26				27				28	来 期 見 通
	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	
全 体	 2.9	 ▲3.2	 ▲12.6	 ▲13.0	 ▲14.0	 ▲20.1	 ▲21.9	 ▲14.9	 ▲20.6	 ▲18.3

※景況天気図は「売上高」「収益性」(前年同期比)のD I 平均値を下記の基準に当てはめたもの。



【図表 2】

